

あなたに贈る健康へのメッセージ —— 知ってください病院のこと、身体のこと

2017
第22巻第3号
冬

医科大どおり

CONTENTS

- 乳腺センター開設
- 病棟紹介（新館6階東病棟）
- 肺炎球菌予防接種について
- スペシャリスト紹介
- お知らせ
- 研修医・指導医紹介
- はじめまして
- 私の好きな風景
- 医科大Q&A



医科大どおり

2017年 季刊誌 第22巻第3号 発行/金沢医科大学病院

編集/金沢医科大学病院二ユー入編集委員会

はじめまして

妊娠がわかり、病院で心拍が確認できた時は本当に嬉しく思いました。初期はつわりがひどく苦しかったのですが、その後初めて感じた胎動や、だんだん大きくなっていくお腹に、赤ちゃんの成長を感じ、赤ちゃんに会える日を楽しみにしていました。金沢医科大学病院には、里帰り出産で、後期からお世話になりました。破水の後なかなか陣痛が来ず、誘発剤の使用後、急に痛みが強くなり、その日のうちに出産となり慌ただしかったのですが、無事に安産で産まれてこられたのは丁寧にサポートして下さった先生方や助産師さんたちのおかげだと思います。産後の赤ちゃんのお世話に対する不安も、助産師さんたちのきめ細やかな指導のおかげで軽くなりました。本当にありがとうございました。



須黒さま

- おとうさん 大誉さま
- おかあさん 尚子さま
- 赤ちゃん 笑笑(ふみ)ちゃん
平成28年12月5日生
3,002g 女の子

私の好きな風景

毎年12月になると長町武家屋敷跡周辺では、雪から土堀を守るためのこもがけ作業が行われるが、最近では、地元の人はもちろん観光客からも興味津々で見られ、作業風景を盛んに撮影している様子が窺われる。



撮影:出版メディア課 中谷 渉

病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度先進医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

患者さんの権利

- 当院は、医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。
- 人間としての尊厳や人権が尊重され、安全で良質な医療を公平に受けることができます。
 - 病状や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べることができます。
 - 十分な説明と、情報提供を受けたうえで、ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
 - 治療のどの段階においてもセカンドオピニオン（他の医療機関の医師の意見）を求めることができます。
 - 診療記録の開示を求めることができます。
 - プライバシーは尊重され、個人情報には厳重に保護されます。
 - 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。

患者さんへのお願い

- 当院は、大学病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。
- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話してください。
 - 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
 - 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
 - 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないよう配慮ください。
 - 当院は教育・研修施設として医学生・看護学生等の臨床教育実習を行っておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

お答えします！ 医科大Q&A

Q 薬をスポーツ飲料やミネラルウォーターで飲んでも大丈夫ですか？ (50代女性)

A ミネラルウォーターで「硬水」と書かれているものは、マグネシウムやカルシウムなどのミネラルが多く含まれており、お薬の吸収を邪魔してしまう可能性があります。お薬を飲むときは「硬水」を避けた方が良いでしょう。「軟水」と書かれているものはミネラルの量が少なく、水道水とほとんど変わりません。

スポーツドリンクはミネラル以外に糖分や吸収をよくする成分などが含まれています。お薬の吸収を邪魔する可能性や、逆に吸収が速くなってしまふ可能性があります。また、粉薬の苦みを隠すコーティングがとれてしまって苦くなってしまふお薬もあります。糖分の摂りすぎにも注意が必要です。お薬やスポーツドリンクの種類によって異なるので一概には言えませんが、スポーツドリンクでお薬は飲まない方が良いでしょう。 (薬剤部)



津幡町舟橋から見た金沢医科大学病院

病院の理念

私たちは「生命への畏敬」を医療活動の原点として次のような病院を目指します

- 患者さん中心の安全で質の高い医療を提供します。
- 人間性豊かで有能な医療人を育成します。
- 新しい医療の研究・開発を推進します。
- 地域の医療機関と協力し地域の医療福祉の向上に貢献します。

乳腺センター開設

近年、乳がん患者さんが増加しており、金沢医科大学病院では専門的に対処するため、2009年に乳腺・内分泌外科が発足し、今回、更に乳腺センターを開設することになりました。

実際、日本では乳がん患者の増加が著しく、国立がん研究センターによると2015年における乳がんの予測患者数は8万9400人、死亡者数は1万3800人でした。2005年の予測患者数は4万1494人、死亡者数は1万721人であり、10年間で死亡者数が3割増し、患者数は2倍以上に増加しています。

一方、乳がん治療はかつて手術（乳房切除術）のみでしたが、現在は多様化した手術（乳房温存術、乳房切除術±乳房再建術、センチネルリンパ節生検）、放射線療法、ホルモン療法、化学療法や抗体療法が行われています。すなわち、乳がん治療は乳腺外科医だけでなく、形成外科医、放射線科医や化学療法医が参加する集学的治療が一般的となっています（図1）。



乳腺センター受付

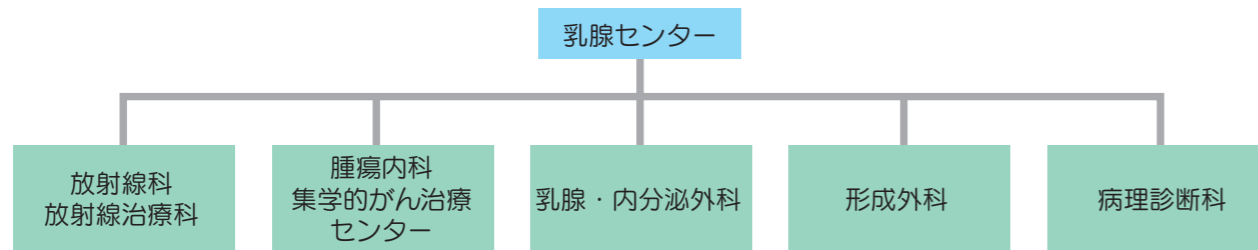


図1:当院診療各科との連携

日本における乳がん患者の増加と乳がん診療の多様化が進む中で、金沢医科大学病院では総力を挙げてそれに取り組もうと乳腺センターを開設しました。乳腺センターは東京などの大都会では、それ程、珍しくありませんが、北陸では乳腺専門の医師が少なく、乳腺センター開設の意義は大きいものと考えます。

乳腺・内分泌外科は野口昌邦教授をはじめ、女性3名を含む5名の医師が担当しています。今後、北陸における乳がん診療の拠点病院として地域に貢献すると共に、乳腺専門医の育成も行っています。

乳腺・内分泌外科は発足以来、「体に優しい乳がん手術」をモットーに新しい手術を世界に発信してきましたが、乳腺センターでは大学病院の機能を生かし、専門各科医師の協力をより緊密にして最新の乳がん診療を患者さんに提供できるものと考えています（写真）。また、乳がんは早期発見が重要であり、マンモグラフィと超音波検査を併用する任意型乳房検診を充実したいと考えています。



乳腺カンファレンスの様子

（記：乳腺センター センター長 野口 昌邦）

病棟紹介（新館6階東病棟）

患者さん、ご家族が安心して退院できるように

新館6階東病棟は脳神経外科、神経内科の病棟で病床数は神経重症室15床を含む45床です。入院される患者さんは、脳卒中をはじめとする脳神経障害の病気の方が主です。重症室と一般床の連携を密にし、早期から退院後の生活を見据えての支援を行っています。



病棟スタッフ

質の高いチーム医療を目指して



カンファレンスの様子

病棟では身体機能障害を有している患者さんが多く、回復への援助と生活の再構築にむけて、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカー、栄養士、薬剤師と共に定期的に多職種でのカンファレンスを実施しています。

心に届く看護を目指して



理学療法士や作業療法士が直接病棟へうかがい入院患者さんのリハビリを行います。



呼吸状態を観察している様子

神経重症室では脳疾患の発症直後、または手術直後の超急性期の看護を行っています。患者さんの声にならない訴えに気が付けるようにきめ細かな観察、ケアを行い、患者さんの心に届く看護を目指しています。

（記：新館6階東病棟 師長 東 和美）

肺炎球菌予防接種について

日本人の死因の第3位は肺炎です。元気な方でも年齢とともに抵抗力（免疫力）の低下を認めると、肺炎の原因となる肺炎球菌などに感染し肺炎を起こしやすくなります。

風邪やインフルエンザにかかったり、糖尿病、呼吸器や心臓に持病がある方も抵抗力が低下しています。そのため、平成26年10月、国は健康寿命を延ばす目的で高齢者への肺炎球菌ワクチンによる肺炎予防を始めました。

誰に？

肺炎で死亡する人のうち96.9%は65歳以上の高齢者です。対象者は以下の方としています。

●65歳の方※

●心臓、腎臓若しくは呼吸器の機能に自己の身の日常生活活動が極度に制限される程度の障害を有する60歳以上65歳未満の方

●ヒト免疫不全ウイルスにより免疫の機能に日常生活がほとんど不可能な程度の障害を有する60歳以上65歳未満の方

平成28年度 定期接種対象者 (対象期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日まで)			
65歳	昭和26年4月2日生～ 昭和27年4月1日生の方	85歳	昭和6年4月2日生～ 昭和7年4月1日生の方
70歳	昭和21年4月2日生～ 昭和22年4月1日生の方	90歳	大正15年4月2日生～ 昭和2年4月1日生の方
75歳	昭和16年4月2日生～ 昭和17年4月1日生の方	95歳	大正10年4月2日生～ 大正11年4月1日生の方
80歳	昭和11年4月2日生～ 昭和12年4月1日生の方	100歳	大正5年4月2日生～ 大正6年4月1日生の方

※平成26年10月から始まった定期接種では平成30年度までの間、65歳以上の方に一人1回対象となる機会があります。対象となる年度のみ公費負担が受けられますが、市町村によって補助の金額は異なります。

副作用は？

おもな副反応は注射部疼痛、発赤などです。

再接種は？

再接種は可能ですが、過去5年以内に接種した方には初回接種よりも注射部位の痛みや腫れが強く認められます。そのため医師の判断が必要です。ご相談ください。ただし、費用は全額自己負担です。

効果は？

肺炎球菌による感染症を予防し、重症化を防ぎますが、すべての肺炎を防ぐものではありません。

また、日常の感染予防として、うがい、手洗い、マスクをしましょう。歯磨きなどの口腔ケアを行い、口の中を清潔にすることも大切です。そして、からだの免疫を高めるために規則正しい生活や禁煙をして、元々持っている病気（持病）を治療しましょう。

(記：呼吸器内科 助教 藤本 由貴)

スペシャリスト紹介

感染管理認定看護師

医療安全部感染制御室 課長 野田 洋子(のた ようこ)

感染管理認定看護師とは？



野田洋子課長



感染管理認定看護師の仲間達

5年以上の看護師経験があり、日本看護協会認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を有することが認められた者を認定看護師と言い、多くの分野に分けられています。その中で感染管理認定看護師は医療施設内において、感染を早期発見、早期かつ的確に対応し、再発防止対策を講じる役割を担っています。

私が感染管理認定看護師を目指した理由

私が結核病棟勤務で、結核に感染したことに対して大変悩まれている患者さん達の姿を目の当たりにした時、医療者が自身を守りつつ（感染対策）、患者さんに寄り添う医療を提供できることを目指したいと思いました。また、集中治療室勤務では緊急医療の現場においても、感染対策は生命に関わる大切な医療の一つであると実感しました。

現在の仕事の内容

金沢医科大学病院の感染管理者として、感染対策の指導および教育をし病院内をまわり実施状況の確認やスタッフへの指導を行っています。また、院内で働くすべての医療従事者（医師、看護師、その他の職種）から、感染対策に関する相談を受けています。

院外においては地域貢献を目的に、他の医療施設や医療従事者に対して教育および実技指導を行っています。



感染対策実施状況の確認と指導院内ラウンド



看護部感染対策の講義
～吐物処理方法～



看護学部生への講義



内灘町トトロの家にてインフルエンザ等ウイルス感染対策の講義

仕事のやりがい

患者さんのために、感染対策を頑張ってもらっている職員の姿を見ると、とても心強く思います。何よりも患者さんが感染をおこさず安心して療養生活を過ごしていただける病院を目指し、感染対策を推進していくことが、私にとってのやりがいです。

「感染しても（うつって）いいのは、笑顔だけ」をモットーに日々頑張っています。

お知らせ

研修医・指導医紹介

当院では補助犬の受け入れを行っています

ご理解とご協力をお願いいたします。

補助犬とは？

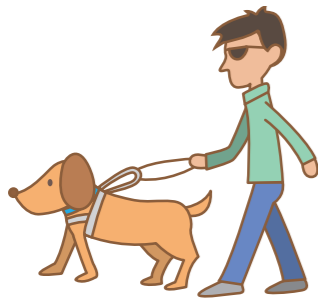
補助犬は「身体障害者補助犬法」に基づき、健康管理と予防対策を講じられた犬であり、障害のある方とともに社会参加することが認められています。補助犬はペットではなく障害のある方のパートナーであり、医療機関である当院は受け入れの義務があります。



補助犬の種類

【盲導犬】

目の見えない方、見えにくい方が安全に歩けるようサポートします。障害物を避けたり、立ち止まって曲がり角を教えたりします。ハーネス（胴輪）をつけています。



【介助犬】

手や足に障害のある方の日常生活動作をサポートします。物を拾って渡したり、指示したものを持ってきたり、着脱衣の介助などを行います。「介助犬」と書かれた表示をつけています。



【聴導犬】

音が聞こえない方、聞こえにくい方に生活の中の必要な音を知らせます。「聴導犬」と書かれた表示をつけています。



当院での同伴可能区域

- 外来エリア（待合室、診察室）
 - 共用エリア（食堂、売店等）
 - 病棟エリア（東、西病棟4～11階までのデイコーナー、個室）
- ※同伴可能区域であっても、その都度配慮することとしています。

補助犬を見かけたら

- ハーネスや表示をつけた補助犬は仕事です。見かけたらどうぞあたたかく見守ってください。
- 仕事中の補助犬には、話しかけたり、じっと見つめたり、勝手に触ったりして気を引く行為をしないようお願いします。
 - 補助犬を同伴している方は、補助犬の健康管理を行っています。補助犬に食べ物や水を与えないようお願いします。

（記：病院管理課）

研修医紹介



2年次初期臨床研修医
藤井 愛（ふじい あい）
岐阜県出身

【医師を志したきっかけ】

私が医師を目指したきっかけは小学校の頃でした。病弱で近くのクリニックにかかることが多く、小規模な町であったためクリニックの数は足りていませんでした。風邪が流行る時期は待ち時間がとても長く、薬ひとつの処方に3、4時間待つこともありました。しかし、そのクリニックの先生に会うとなんだか安心ができ、その当時の私は苦いお薬やきらいな注射でさえがんばろうと思えました。地域の医療に従事し信頼を得て長年働かれているその先生にいつしか憧れを持つようになりました。憧れをもったものの医学部進学は大変なものでした。通学路を歩いていると農作業中のご近所の方から「早く診てね。」と言われ高校時代プレッシャーに感じることもありました。しかし家族や学校・塾の先生はじめ同級生に支えられ医学部に入学・無事卒業し医師として働くことができるようになりました。

【臨床研修中に印象に残ったエピソード】

血液検査の結果や病態説明をする際、どうしたら理解してもらいやすいか。入院中だけでなく自宅に帰った時も病気に向き合えるためにどうしたら良いか。そういったことを考えながら接するようしていました。資料をお渡ししたりイラストを書いたりして担当患者さんにお話し、「ありがとう。疑問が解決できてよかった。」と言っていたときはとても嬉しかったです。

指導医紹介



循環器内科
斉藤 竜平（さいとう りゅうへい）

【最近の研修医の指導について感じていること】

自分が研修医だった頃は、診断や治療の課題に気付かないことも多く、問題点を認識した後も、それを解決するために多大な時間を要しました。現在は、以前よりも研修医制度の柔軟性が高まり、逆に高い目的意識を持って研修科を選択している研修医が増えたように感じています。その分、正確に課題を突き止め、問題点の解決にあたっては一度壁にぶつかることもありますが、少しのヒントを与えるとこちらが期待した以上の成果を出してくれる場面が頻繁に見受けられます。

【自分の研修医時代との違い】

循環器内科は急患も多く、昼間は病棟での日常業務に忙殺され、その中で直面する問題に後になってから研修センターで一人悩み…という日々も多かったです。しかし最近はコミュニケーションツールも発達し、研修医と指導医の精神的な距離が近くなっていると思います。また病院の目の前に研修医宿舎ができたことにより、とすれば指導医単独で行うことが多い時間外や休日の診療に多くの研修医が携わることができるのは、非常に嬉しいことだと思います。